
目次

.....

【1】 --- 教員コラム 15 弾 第 7 回「図書館長と図書委員」免疫学教室 / 岸田綱郎

.....

【2】 --- 同門会誌など、お寄せください

.....

【3】 --- ハゲタカ出版社の見抜き方

.....

[Book Review] ・ ・ ・ 編集後記にかえて

【1】 --- 教員コラム 15 弾 第 7 回「図書館長と図書委員」

免疫学教室 / 岸田綱郎

.....

私が京都府立医科大学の図書館で最も御世話になったのは、京都府立医科大学の博士課程に入学してから修了までの 4 年間です。当時は今ほどに自分の PC で論文を検索して読むという事が出来ませんでした。論文の Reference を片手に図書館で雑誌を探してコピーして読む。京都府立医科大学にない時は、京都大学の図書館に探しに行く。それでも無ければ文献の取り寄せを図書館のカウンターに御願いしに行く。そんなパターンで論文を読んできました。今の方が便利ですが、昔の方が不便な分だけ論文を読む気構えも、気持ちも充実していたようにも思います。

また、図書館の個室も良く使わせてもらいました。抄読会用の論文を読んだり、学会の発表練習をしたり、集中力が必要な時は独りになりたくて個室に籠らせていただきました。時には、二日酔いで寝ていたこともありましたが（笑）。

今は書籍も楽天や Amazon ならワンクリックで購入できますし、電子書籍ならクリックして 1 分後には読み始めることができる。さながら家に図書館があるような感じです。インターネットの充実で本に限らず情報も非常に効率良く手に入りますが、ピンポイントの情報が多くて広がり欠けているように思います。本屋や図書館で、並んでいる本を何気なく手に取ってみるといふ行為が、実は興味や読書の幅を広げてくれるという事も最近良く感じます。

研究に関しても同様な事が言えるのではないかと思います。何気なくバラバラと見た原

著や日本語の雑誌から、研究の広がりやヒントと出会えるのではないかと思います。そういう意味で大学図書館に行く機会が少し減ってしまっている現状については反省しています。

話は変わりますが私の亡き父は京都府立医科大学の卒業生でして、実は「図書館長」の役職を務めさせていただいた事がありました。父が図書館長になれた時に、ものすごく喜んでいた事を今でも良く覚えています。京都府立医科大学の事を心の底から愛していた父でしたので、その図書館の長に任命されたことは、本当に嬉しかったのだと思います。

そして私は現在、図書委員をやらせてもらっております。そういう縁もありまして、就任依頼を受けた時には非常に嬉しく、そして感慨深くもありました。

大学医学部の図書館の在り方も今後は変革激動の時代です。現在、京都府立医科大学では、世界中の何処にも無い様な未来志向の図書館を作るという夢のあるプロジェクトが進んでおり、図書委員として少しでも貢献できたらと思っております。もう少し先の話になります。が完成したあかつきには、あの世の父に少し自慢してやろうとたくらんでいます。

※過去の教員コラムは、[こちら](#)です。

【2】 --- 同門会誌など、お寄せください

.....

図書館では本学に関する資料を収集しています。貴重な大学資料として永年保存し、未来に役立てるため、図書館へご寄贈いただきますよう、お願いします。

収集対象は以下のような資料です

- ◆各教室の同門会誌、業績集、会報
- ◆大学の広報資料
- ◆卒業記念アルバム
- ◆名簿、便覧、シラバス、概要、要綱
- ◆本学で行う講座・研修・イベントの案内チラシやパンフレット
- ◆その他（各所属で発行している定期的なお知らせ 等）

対象資料をお持ちの方は事前にご連絡(内線 9404)の上、お手数ですが図書館カウンターへご持参ください。

【3】 --- ハゲタカ出版社の見抜き方

近頃、図書館にも問合せをいただくハゲタカジャーナルの判別方法について、Wolters Kluwer 社が[こちらの記事](#)で解説しています。オープンアクセス論文を投稿するにあたっての注意点など、参考にご覧ください。

[Book Review]

八木正自著 「古典籍の世界を旅する：お宝発掘の目利きの力」（平凡社 2021.1）

今年の図書館総合展、古書店主である著者の講演において紹介された一冊。講演自体も楽しく拝聴したが、本著も専門的知識がなくても読みやすく興味深く拝読した。

著者の父君が13歳で就職し、生涯図書に携わり勉強し続けた話や業界の師である反町茂雄氏が自費出版で古典籍目録を制作し配布した話など、業界人の勤勉さや実直さが感じられ、見習いたいものだと思った。最終章では日本の古典籍のポテンシャルの高さと評価されていない現状を訴え、図書館への期待も述べられている。

新しいものにばかり目を向けがちだが、温故知新の言葉のとおり、古いものにも知識は溢れている。古い資料の保存管理は「知識の宝庫」と言われる図書館の役割であると再認識させられた。(T.K) (京都市中央図書館所蔵「K-Libnet」で貸出が可能です)

KPUM Library Booklog : <http://booklog.jp/users/kpumlib>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/458285964X>

図書館メール News 第 453 号 2021.11.26 発行 (隔週金曜日発行)

編集・発行 : 京都府立医科大学附属図書館

library@koto.kpu-m.ac.jp

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

(図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓)

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/webservice/mailnews.html>